

三和の里ふれあいマップ（補足説明書）

地勢

いわき市の西部、阿武隈高地に位置し、市内 13 地区で最も面積が広い。(214km²/1, 231km²≒17.4%を占める。)

平均海拔 460m。好間川・小玉川・三坂川が流れる。住宅地以外は、山林農地がその大部分を占め、山林面積は 83%に達する。

古くから、杉・松の名産地とされる。

歴史（戦国時代まで）

紀元前 6 千年頃の竪穴式住居跡（下市萱竹之内遺跡）があり、古くから集落があった。

地方の国人領主争いのなか 1442~1446 年頃、岩城氏が惣領主（郡人）の地位を確立、1573~1592 年頃、三阪氏（琵琶庄三倉郷出？）が三倉城 [さのくらじょう] を、平山氏が中寺館 [なかでらかん] にて統治という。

歴史（江戸時代）

1634 年菊田郡泉藩領となるが、1702 年泉藩は減石され、合戸村・渡戸村・三坂村・市ヶ谷村（市萱村）・中寺村は、幕府代官所の、直轄支配を受ける。1749 年常陸国笠間藩の領地（渡戸・中寺・下市萱・上市萱・上三坂・中三坂・下三坂・差塩）となるが、上永井・下永井は、小名浜代官所の直轄支配となった。

人口

昭和 30（1955）年八千人に対し、現在（2015）年三千人（なお、世帯数は 1,400 に対し、1,100 程度）となっている。

これは、いわき市の人口・世帯数のおよそ 1%に満たない。また、在住者の 65 歳以上が占める割合は、35%程度となっている。

これに伴い、労働力率の低下も著しい。

歴史（明治から昭和へ）

廃藩置県により明治 12（1879）年、上三坂・下市萱・上市萱・中寺・渡戸・合戸を合し中寺村に、中三坂・差塩・下三坂・上永井・下永井を合し差塩村に、戸長役場置く。

昭和 30（1955）年 2 月 11 日永戸村、沢渡村、三坂村が合し、三和村となり、昭和 41（1966）年 10 月、いわき市合併に至る。

竹之内式土器

[たけのうちしきどき]。下市萱竹之内遺跡から発掘された沈線文土器群を指す。沈線紋のほか、燃糸文・押型文・無紋・貝殻沈線紋・条痕紋など縄文時代早期の土器全て網羅する出土が認められている。

三和町作 B 遺跡には、竪穴式住居のほか、配石遺構もあり、祭礼史研究には、興味深い。

産業

昭和 55（1980）年と平成 22（2010）年の産業別人口比は、第三次微増、第二次減、第一次では、1/4に激減している。

詳細分析に乏しいが、第二次関連では、事業所数減少に伴う従業者数減、第一次関連では、いわゆる兼業農家の激減する一方、専業農家及び自給的農家が増えている。

三坂城

[みさかじょう] は、別名、三倉城 [さのくらじょう] [みくらじょう] 桜城 [さくらじょう] と呼ぶ。標高 662mの丘陵に、縄張り、主郭・物見台を中心に大小の曲輪・土塁・空堀・小口・道などで構成され、上下の曲輪と曲輪を結ぶ袖土塁の発達は、特徴的。

戦国時代末期の城の特徴を、色濃く残す。

すけごう だちんかせ 助郷・駄賃稼ぎ

参勤交代の見せかけ行列（助郷）もあった。

また、大正のころまで、阿武隈越えの道（脇街道の路筋）には、材木運びの帰りに塩（海産物）を駄送する「継ぎ送り」があり、牛方・馬方（兼業農家）の大きな収入源とされた。街道宿には問屋が軒を連ね、馬車休憩のため立場（茶屋）もあった。人力車営業もあった。

三和の里ふれあいマップ（補足説明書）

道

国道 49 号線は、岩城街道（磐城街道とも）が、仮定県道二級路線指定を受け（1885 年）、二級国道 115 号（1953 年）、一級国道昇格（1963 年）、一般国道（1965 年）となる。

県道（小名浜小野線、いわき上三坂小野線、川前停車場上三坂線、三株下市萱小川線）、磐越自動車道（三和 I C、差塩 P A）等がある。

停留所

現在（平成 27 年 4 月）一般乗合バスは、国道 49 号線を往来する「いわき駅～好間平坑～合戸～沢渡～上三坂」、県道小名浜小野線経由の「いわき駅～好間平坑～合戸～差塩」の 2 系統となった。

交通難所要衝も牛・馬、軌道車両から自家用自動車へと変遷、唯一の往来系統。

一作入魂

平均気温 13℃、いわき市海浜部低地などからすれば、寒冷に属する。

夏季は雷雨、冬季は降雪量多く、特に冬季（1～2 月中約 20 日）寒風による土壤凍結、屋外作業に注意を要する。

初霜 11 月 5 日、晩（遅）霜 5 月 15 日、初雪 12 月 25 日、晩（遅）雪 4 月 3 日。

【主要参考文献】三和村勢要覧（三和村 昭和 33 年版）、いわき市史第 7 巻民俗（いわき市 昭和 47 年版）、同第 2 巻（昭和 50 年版）、新しいいわきの歴史（いわき地域学会 平成 3 年版）、いわき伝統芸能フェスティバル特別寄稿（平成 6 年版）、「みわのさとたからものマップ」（三和町地域振興協議会・三和町区長会 平成 11 年版）、いわき市内地域別データファイル 2013（いわき市 平成 26 年版）等

【後記】古より、農耕狩猟に暮らす人々の営みが絶えることなく、東西南北の交通（政争）要衝として、その役割は、時代（人々の嗜好）とともに移ろい、また、自然の営みは、人智を遥かに超え、確かに息づいているのだろう。

未（魅）話は、尽きない。暮らし、行き交い、心を通わせるたくさんの方々によって、紡がれていくことだろう。将来に渡り、語り継がれていくこととなるだろう（己祈）

三和の里ふれあいマップ（見学説明書）

問題 1. の答【テンキチョウ】

…国土地理院地形図など参照。

問題 2. の答【いわき市暮らしの伝承郷】

…いわき市鹿島町下矢田散野 14-16

<http://www.denshogo.jp/jyousetsu.html>

問題 3. の答【イッポンナ】

…国土地理院地形図など参照。

三匹獅子

一頭の雌を二頭の雄が争い、仕舞いに「マツヤマノマツニカラマルツタモダモエンガキレバパラリフグレル」と唄われる「カガトッカエシ」と云われる場面がある。笛太鼓のほか、花笠の「ササラすり」が囃子立てる。

渡戸（檜木）は福島県無形重要民俗文化財指定。合戸、上永井・下永井にも伝わる。

じゃんがら

江戸時代。夏祭りの始まりとして波立薬師で夜通し過ごす。縁結びと安産を願う男女で夕刻から明け方まで鬨伽井嶽薬師は人で埋まり、踊りの輪ができ、夜明けまでこの輪はくずれない。と云われたらしい。

十九夜講、新盆供養のため、踊る。三和の旋律（リズム）は、いわきの中でも、早い。

やっちき踊り

嬬歌（歌垣）[かがい]。本来、鬨伽井嶽薬師夏祭りの踊りで「万葉集」や「常陸風土記」に見られるものは、現在、その片鱗も見られない。もともと、男女求愛の踊り。「サンヨー踊り」や「いわき甚句」に対し、「櫓壊し」とも云う。上三坂に唯一保存され、今に伝わる。平成 8 年福島県無形重要民俗文化財指定。